【ドバイ 2019 世界パラ陸上競技選手権大会・第 7 日（11 月 13 日午後）】出場選手コメント

◆女子 100m　T63　決勝

・兎澤　朋美（日本体育大学）

走り幅跳びの疲れが少し残る中でのレースだったが、自己ベストを更新してのアジア新記録。よかったと思う。スタートはいつもに比べて思い切り出られたが、中間走の部分で後傾し体幹がぶれてしまう感覚があったので、まだまだやらなければならないところがあるなと感じた。スピードが出ると、どうしても無意識的に怖いと思ってしまい、ブレーキをかけてしまいがち。そういったものがなくなれば、もっといい記録が出ると思う。

走り幅跳びの記録向上にも走力は不可欠な要素なので、100m でももっと高いレベルで競いたいとも思っている。冬場にしっかり準備をしたいと思う。

今後は少し休んで冬季練習に入ると思う。きつい練習になると思うが、すべて自分のため、来年のためになると思うので、気持ちを高くもってできたらと思う。

初めての世界選手権デビュー戦だったが、監督、コーチ陣たちにサポートしてもらったおかげで、東京パラの出場内定ももらえて、100m でもアジア新記録だったので、いい大会になったのではないかなと思う。

・前川　楓（チーム KAITEKI）

昨日、走り幅跳びで東京パラが内定でホッとして、今日の 100m は思い切り走るだけと思って挑めた。自分の限界にチャレンジすることができたのでよかった。昨日のダメージがあったなか、18 秒 8 は出そうだと思っていたが、自分のコンディション的にはいいところまでは行けたかなと思う。

課題は、義足をついたときに健足がすぐに戻してしまうこと。ブレードがたわむスピードをもう少し伸ばし、健足の滞空時間を伸ばし、伸び伸びと走り抜けるようにしたい。

（コメント協力：星野恭子）